

生活機能の整った歩いて暮らせる成熟した「まち」

# クオリティーの高い まちづくりを目指します



酒々井町長  
小坂 泰久



あけまして  
おめでとーございませう

町民の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私にとりまして、昨年は町長に再選後、まちづくりの第2ステージのスタートの年として各種施策に取り組んでまいりました。

これまで簡素で効率的な行政経営に努め、職員の意識改革と行財政改革により、財政力の向上を図り、持続可能なまちへの基盤づくりを行いながら、節減した予算を活用し、特に子育て支援や安全・安心

のまちづくりなど、新たな施策に取り組んでまいりました。

この第2ステージでは、さらに、サービスの充実と質を高め、町民満足度の向上に努めてまいりたいと考えます。

## 昨年をふりかえって

・小学6年生まで医療費助成を拡充



小学校就学前までの子どもを対象としていた医療費の助成を小学

6年生まで独自に拡充・実現するなど、子育て環境の充実を図りました。



全国小さくても輝く自治体フォーラム

・学校耐震化への取り組み  
昨年3月に念願の酒々井小学校体育館が完成しました。また、各学校で現在行われている耐震化工事の完了により、本年いち早く学校耐震化率100パーセントを達成することができました。

・全国小さくても輝く自治体フォーラム開催  
9月25日から26日にかけて「全国小さくても輝く自治体フォーラム」がプリミエール酒々井を主会場に開催されま

した。国から、自治体関係者など総勢200名を超える方々が来町され、小規模自治体と地域振興の課題などをテーマに記念講演や分科会、シンポジウムを通じて、交流、意見交換を行いました。

・ゆめ半島千葉国体関連スポーツ大会開催  
千葉県で37年ぶりとなる「ゆめ半島千葉国体」が開催されました。当町では10月2日に国体のデモンストレーション競技としてパークゴルフ大会を開催し、県内から300名を超える参加を得て行われました。

・南部地区新産業団地に企業進出決定  
(仮)酒々井インターチェンジの工事が本格化し、都市再生機構が進める南部地区新産業団地にアウトレットモールを展開するチュルシージャパン(株)の進出が決定しました。

## 本年に向けて

急速に進む少子高齢化等により社会構造が大きく変わろうとしている現状にある中で、町の歴史的な文化遺産や景観、恵まれた自然環境を活かすな

ど、町独自の特性(強み)を最大限に活かし、生活機能の整った歩いて暮らせる成熟した「まち」として、高品質、いわゆる「クオリティー」の高いまちづくりを目指して、バリアフリー化をはじめとした中心市街地の活性化や子育て環境の整備等により、「子育てしやすい町」「清潔できれいな町」そして「安全で安心して暮らせる町」として、子どもから高齢者まで、すべての人たちがいきいきと安心して暮らせる「コンパクトシティ酒々井」を目指して取り組んでまいりたいと考えております。

特に、少子高齢化が急速に進む中で、「高齢者や障害者が暮らしやすいまちづくり」を目標の一つに考えておりますが、コミュニティの形成、地域再生といった点から「空間構造」という視点を重視しながら、同時に福祉的な観点を加え、街の中心部に「空間」を配置し、誰もが立ち寄り交流が図れる空間とする。すなわち「都市政策と少子高齢化に伴う福祉政策の統合」を展開していくことが重要と考えています。

# クオリティーの高いまちづくりへ

少子高齢化の影響  
(社会保障費の増大・町民税の減収)

生活環境

## 町の優れたポテンシャル・地域資源

- 都心から50km圏内、成田国際空港の10km圏内
- 豊かな自然環境と温暖な気候
- 歴史的景観、文化遺産
- 交通利便性  
鉄道（JR・京成、3線4駅）、国道（51号・296号）などの交通網、ふれ愛タクシーの運行、（仮）酒々井インターチェンジ（平成25年春開設予定）
- インフラ整備  
・バリアフリー化されたJR・京成両酒々井駅および駅前広場  
・90パーセントを超える上水道・下水道普及率  
・小中学校の教育施設耐震化率100パーセント など

## 中心市街地の活性化

町独自の特性(強み)を活かしたまちづくり

ハード整備

ソフト事業の充実

小さい町だからこそできるきめ細かいサービス

生活機能の整った歩いて暮らせる成熟した「まち」  
クオリティーの高いまちづくり

具体的には、東酒々井地先の「井戸端（交流サロン）」において、高齢者の閉じこもりの防止や話し合い、情報発信等、地域の皆さんが互いに知り合い交流を深めることのできる場として、誰もが住民活動に参加しやすい拠点づくりを進めています。

さらに、ユニバーサルデザインのみならず、JR酒々井、京成酒々井両

駅の利用性の向上と高齢者や障害者の移動に配慮して、今年度エレベーターの設置工事が完了しますが、今後、地域住民や関係事業者との話し合いや協力により活性化方策を検討していくなど、少しずつではありますが中心市街地の活性化を図ってまいりたいと考えております。

なお、私が目指すまちづくりの政策の一つとして、先進

福祉「千葉県一」のモデル町づくりがありますが、これは町民の誰もが求める「幸せ」を追求し、それを可能にする地域社会の創造に向けて、町民と行政が協働・連携して取り組み、その結果、高齢者になっても「元気で住み慣れた場所に住み続けられる」まちづくりを実現するため推進しようとするものです。

このため、介護保険サービ

スをはじめとした各種サービスの提供に努めていくとともに、地域に住む一人ひとりが地域住民としてのつながりを持ち、高齢者を地域全体で支える「支え合い・助け合う」まちづくりによる地域福祉の展開と酒々井町ならではの特性を活かしたまちづくりといった二つの視点から推進してまいりたいと考えております。

なお、本年は平成24年度からスタートする第5次総合計画を策定する重要な年となりますが、策定作業は昨年から進めており、町民意識調査や議員インタビュー、地域別・分野別懇談会、さらに公募や学識委員を含めた総合計画懇談会を設置し、町の課題や今後のまちづくりについて町民の皆様からご意見を伺いながら計画づくりに取り組んでいくところですので。

結びに、本年も町民の皆様への負託にこたえるため、一歩ずつではあります、全力を尽くすことをお約束しますとともに、本年が皆様方にとりましてすばらしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

# 街かどウォッチング



改札内エレベーターの利用が可能になったJR酒々井駅(写真は、上り線)



バリアフリー化工事が完了した京成酒々井駅(写真は、改札外エレベーター)